第51回青少年読書感想文府コンクールで知事賞

南丹市立園部小学校4年　水口 千星さん

第五十一回青少年読書感想文府コンクール（府学校図書館協議会主催）で、園部小学校四年生（受賞当時三年生）の水口千星さんがみごと京都府知事賞に輝きました。同コンクールには小中高六百十六校、二万九千八百三十八人の応募があり、千星さんの作品『「あおむし　けむし」を読んで』など合計五点が知事賞に選ばれました。

「あおむし　けむし」を読んで

園部小学校四年　水口　千星

自ぜんを大切にするおじいちゃんのくらし方を知って、おばあちゃんを思い出しました。

私のおばあちゃんは、やさいをそだてていて、野さいにやさしく話しかけたり野さいのまわりにある自ぜんにやさしくしたりするとてもすてきなおばあちゃんです。おばあちゃんの畑にあおむしのたまごがありました。おばあちゃんの畑にいたあお虫はブロッコリーの葉っぱのうらに、見つからないようにそっとくっついていました。もうすぐあお虫になるのかなと思って、楽しみになりました。おばあちゃんも、あお虫のたまごをとらずにそのまま、そっと見まもっていました。そんな時わたしが学校から、マリーゴールドのたねを、もってかえってきた時に、おばあちゃんが、「ほしい」と言うので、わけを聞くと「やさいにあお虫がくるとぜんぶ食べられるので、マリーゴールドをそだてていると、マリーゴールドのにおいをいやがって、あお虫がよってこないんだよ」と教えてくれました。

野さいも育って、青虫も近づいてこないから、マリーゴールドはすごいと思いました。

おじいちゃんが、女の子に教えてあげていたように虫たちもすきな食べ物がはっきりしていることがこのことでもよく分かりました。

あお虫は、えさになるキャベツの色と同じです。虫たちは、こんなふうに見つかりにくいように体の色と、生みつけた葉っぱの色がにているのではないのかなと思いました。

小さな虫たちが生きていく知えだと思いました。

本と同じようにあお虫をピンセットでつまむと「くるり」と丸まって地面に転げて落ちていくあお虫を見ました。うまく転げ落ちて草の中にまぎれこんで見えなくなりました。

また、自ぜんにまもられて、虫がにげてしまったように思いました。

わたしのおばあちゃんの畑にも、いろいろな虫がやってきます。おばあちゃんの畑では、消どくをしてない新せんな野さいが育っています。人の体にもやさしく、そしておいしいやさいを作っています。もし消どくをした野さいを虫が食べていたら畑にやってきた虫は、元気に生きられたかどうか分かりません。わたしのおばあちゃんは、おじいちゃんと同じで自ぜんのことを考えていると思いました。

やさしいおばあちゃんの気もちが、畑にはつまっているので虫たちもやってくるのだと思います。虫たちも自ぜんの中で生き生きと生きていけることは、人間も元気に生きていけることにつながっているように思いました。

自ぜんの中で生きてきた生き物たちが、生きていける自ぜんをまもるっていうことは、人間にとっても生きていく大切なことだとわたしは、思いました。自ぜんを大切にしているわたしの、じまんのおばあちゃんや、虫にやさしいおじいちゃんから教えてもらったことは、わたしのたからです。みんなの元気のもとは、自ぜんだと思いました。